

刑法義解

太田聿郎註解

六

7

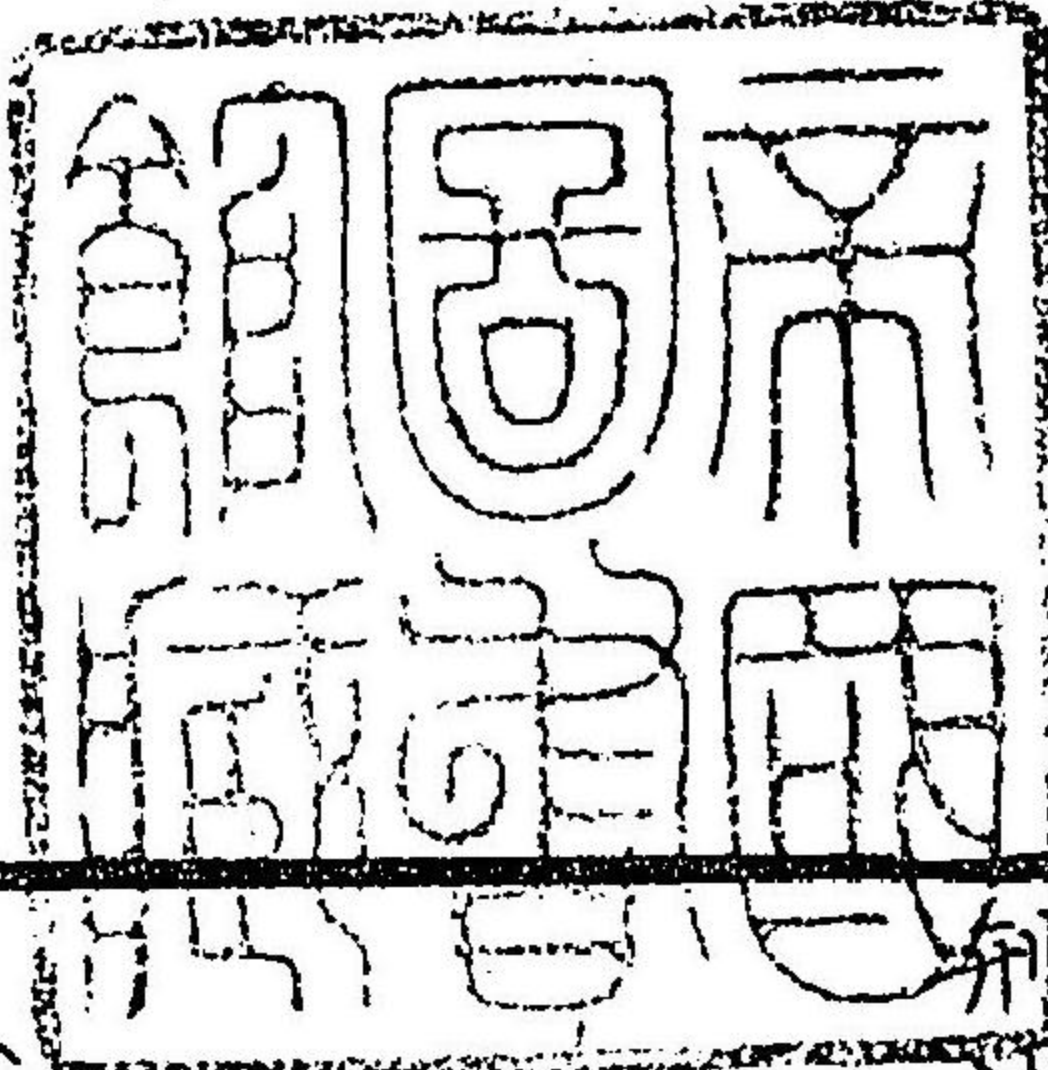
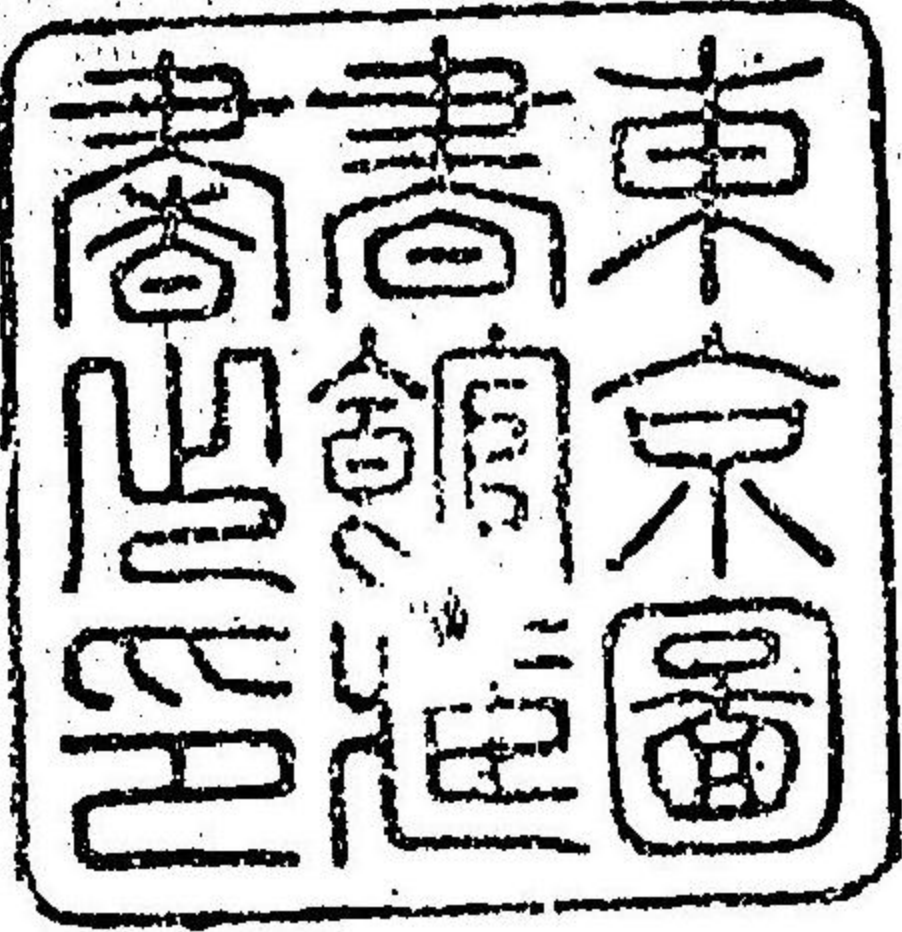
卷之六 目 表

第三編	身體財產對スル重罪輕罪	一葉
第一章	身體二對スル罪	同葉
第一節	謀殺故殺ノ罪	同葉
第二節	毆打創傷ノ罪	五葉
第三節	殺傷ニ關スル脅迫及ニ不倫罪	十二葉
第四節	過失殺傷ノ罪	十九葉
第五節	自殺ニ關スル罪	廿一葉
第六節	擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪	廿三葉
第七節	脅迫ノ罪	廿六葉
第八節	墮胎ノ罪	廿九葉
第九節	幼者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪	三十一葉
第十節	幼者ヲ奪取誘拐スル罪	三十六葉
第十一節	猥褻姦淫重婚ノ罪	三十九葉
第十二節	誣告及ヒ誹毀ノ罪	四十五葉
第十三節	祖父母父母ニ對スル罪	五十葉

東京圖書館

和書門

類 一函 二架 六號 七冊



刑法義解卷之六

第三編 身體財産ニ對スル重罪輕罪

〔註〕前編ハ公益ヲ害スル重罪輕罪ヲ掲ケ此編ハ一己ノ

利益ヲ害スル重罪輕罪ヲ掲ケ而シテ此編ヲ大別

シテ二章ト為ス曰ク身體ニ對スル罪曰ク財産ニ

對スル罪是ナリ

第一章 身體ニ對スル罪

森 權 六

校正

山 住 才 三

太田 幸 郎 註解

〔註〕此章ハ人ノ身體ニ對スル重輕罪即チ人ノ生命自由安寧貞操及ヒ名譽等ヲ害スル罪ヲ云フ
第一節 謀殺故殺ノ罪

〔註〕此節ハ人ノ生命ヲ害スル罪ニシテ即チ身體ニ對スル罪ノ最モ重キ者トス謀殺故殺ノ區別ハ以下各條ニ就キテ詳説ス可シ

第二百九十二條

豫メ謀テ人ヲ殺シタル者ハ謀殺ノ罪ト為シ死刑ニ處ス

〔註〕本條ハ人ヲ謀殺シタル罪ニシテ謀殺トハ人ヲ殺害

セントスルノ意思アリテ豫シメ其方法策略ヲ謀リ之ヲ行フタル者ヲ云フ例ヘハ竊カニ兇器ヲ携帶シ物陰ニ潜伏シ仇怨アル人ノ來ルヲ待チテ之レヲ殺害シ或ハ夜間其家ニ忍ヒ入り之ヲ殺害スルノ類此等ノ所為ハ其情狀最モ惡ムヘシ故ニ之ヲ死刑ニ處ス

第二百九十三條

毒藥ヲ施用シテ人ヲ殺シタル者ハ謀殺ヲ以テ論シ死刑ニ處ス

〔註〕本條ハ人ヲ毒殺シタル罪ニシテ毒殺トハ毒物ヲ用

ユル方法ノ如何及ヒ其効驗ノ遲速ヲ論セス又々豫謀ノ顛跡アルト否トヲ問ハス人ヲ殺スニ足ルヘキ有毒物ヲ施用シテ人ヲ毒害シタルヲ云フ此等ノ所為ハ殘忍慘酷ニシテ且ツ其事タル隱微ノ間ニアルヲ以テ被害者之ヲ防禦スル^{コト}難ク其情狀極メテ重シ故ニ謀殺ヲ以テ其罪ヲ論シ死刑ニ處ス

第二百九十四條

故意ヲ以テ人ヲ殺シタル者ハ故殺ノ罪ト為シ無期徒刑ニ處ス

註本條ハ人ヲ故殺シタルノ罪ニシテ故殺トハ始メヨ

リ人ヲ殺スノ意ナクシテ臨時殺意ヲ起シ人ヲ殺害シタル者ヲ云フ此レ等シク人ヲ殺スノ罪ト雖モ其所為タル多クハ^{イカ}爭論鬪毆ノ際憤怒ニ乘シテ忽然殺意ヲ起シ人ヲ殺ス者ニシテ彼ノ豫メ謀テ人ヲ殺ス者トハ其情狀自カラ輕シ故ニ之ヲ無期徒刑ニ處ス

第二百九十五條

支解折割其他慘刻ノ所為ヲ以テ人ヲ故殺シタル者ハ死刑ニ處ス

註本條ハ^ハ慘刻ノ所為ヲ以テ人ヲ故殺シタル者ノ罪ニシテ支解トハ^ハ耳鼻ヲ切斷シ或ハ四肢ヲ截解スルノ

類折割トハ人ノ腹部等ヲ割キ四肢ヲ折ルノ類其他
 慘刻ノ所為トハ湯火ヲ以テ其身體ヲ燒爛シ或ハ汚
 物ノ中ニ投入スル等人ヲシテ痛苦セシムル所行ヲ
 云フ此等ノ所為ヲ以テ人ヲ故殺スル者ハ其殘忍兇
 惡最モ甚シ故ニ豫謀ニ出テスト雖凡謀殺ト同シク
 之ヲ死刑ニ處ス

第二百九十六條

重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル為メ又ハ已ニ犯シテ其罪
 ヲ免カル、為メ人ヲ故殺シタル者ハ死刑ニ處ス

註 本條ハ他ノ重罪又ハ輕罪ト關連シテ故殺罪ヲ犯シ

タル者ノ罪ニシテ重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル為メ
 トハ例ヘハ強盜ヲ行ハン為メ事主ヲ故殺シ或ハ囚
 徒逃走セン為メ看守者ヲ故殺スルノ類又ハ已ニ犯
 シテ其罪ヲ免カル、為メトハ例ヘハ強盜ヲ為シ財
 物ヲ得タル後事主ノ覺逐スルヲ故殺シ或ハ囚徒逃
 走ノ際追捕ノ官吏ヲ故殺スルノ類是ナリ此等ノ者
 ハ其情狀甚々重シ故ニ豫謀ニ出スト雖凡之ヲ死刑
 ニ處ス

第二百九十七條

人ヲ殺スノ意ニ出テ詐稱誘導シテ危害ニ陷レ死ニ致

シタル者ハ故殺ヲ以テ論シ其豫メ謀ル者ハ謀殺ヲ以テ論ス

註本條ハ自カラ手ヲ下シ人ヲ殺サスト雖氏人ヲ殺スノ意ニ出テ之ヲ危害ニ陷レ死ニ致シタル者ノ罪ニシテ詐稱誘導シテ危害ニ陷ルトハ例ヘハ津河水深ク泥濘ナルヲ平淺ト詐稱シ或ハ橋梁渡船術漏セルヲ牢固ト詐稱シテ人ヲ過渡セシメ又ハ禰抗ノアル所ニ人ヲ誘導シ因テ陷溺シテ死ニ致シタル者ヲ云フ此等ノ者ハ臨時殺意ヲ起シテ為シタル片ハ故殺ヲ以テ其罪ヲ論シ其豫メ謀テ為シタル片ハ謀殺ヲ

以テ其罪ヲ論スル者トス

第二百九十八條

謀殺故殺ヲ行ヒ誤テ他人ヲ殺シタル者ハ仍ホ謀故殺ヲ以テ論ス

註本條ハ人ヲ謀殺又ハ故殺セントシテ誤テ他人ヲ殺害シタル罪ニシテ例ヘハ甲ヲ毒殺セント欲シ飲食物ニ毒藥ヲ混和シ之ヲ薦ムルニ乙之レヲ食シテ死シ又ハ暗夜甲ヲ殺サント欲シ之ヲ刺スニ誤テ乙ヲ刺殺シタル類是ナリ此等ノ場合犯人未タ其目的ヲ達シ得スト雖氏既二人ヲ殺スノ意アリテ之レヲ

為シタル者ナレハ誤殺ニ條ルト雖氏仍ホ謀殺又ハ
故殺ヲ以テ其罪ヲ論ス可キ者トス

第二節 毆打創傷ノ罪

〔註〕此節ハ故意ヲ以テ人ヲ毆打シテ創傷若クハ

疾病ニ罹ラシメタル罪ヲ云フ若シ人ヲ毆打

シテ創傷疾病ニ至ラサル時ハ第四百二十五

條第九項ニ照シ違警罪ト為シテ之ヲ罰ス可

キ者トス

第二百九十九條

人ヲ毆打創傷シ因テ死ニ致シタル者ハ重懲役ニ處ス

〔註〕本條ハ人ヲ毆殺シタル罪ニシテ手足槌棒若クハ金

刃ヲ以テスルヲ問ハス人ヲ毆打シテ創傷ヲ加ヘ為

メニ死ニ至ラシメタル者ヲ云フ夫レ毆殺モ亦タ等

シク人ヲ殺スノ罪ナリ然レ氏其所為タル毫モ殺ス

ノ意ナクシテ死ニ致シタル者ナレハ全ク犯人ノ意

外ニ生セシ事ト云フ可シ故ニ謀故殺ニ比スレハ其

情狀大ニ輕キヲ以テ之ヲ重懲役ニ處ス

第三百條

人ヲ毆打創傷シ其兩目ヲ瞎シ兩耳ヲ聾シ又ハ兩肢ヲ

折リ及ヒ舌ヲ斷チ陰陽ヲ毀敗シ若クハ知覺精神ヲ喪

失セシメ篤疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處ス

其一目ヲ瞎シ一耳ヲ聾シ又ハ一肢ヲ折リ其他身體ヲ

殘虧シ廢疾ニ致シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁

錮ニ處ス

註本條ハ人ヲ毆打創傷シテ篤疾又ハ廢疾ニ致シタル

者ノ罪ニシテ即チ故意ヲ以テ人ヲ毆打創傷シ其兩

目ヲ瞎シ兩耳ヲ聾シ又ハ兩手或ハ兩足ヲ折リ及ヒ

舌ヲ斷チ陰陽ヲ毀シ若クハ知覺精神ヲ喪失セシム

ルヲ篤疾ニ致スノ罪トス此等ノ者ハ人ヲシテ其身

體ノ自由便益ヲ失ハシメイッシヤクカイ畢生間ノ幸福ヲ害スル

少ナシトセス故ニ之ヲ重懲役ニ處ス

又タ人ノ一目ヲ瞎シ一耳ヲ聾シ又ハ一手一足ヲ折

リ其他指齒ヲ折リ耳鼻ヲ決毀スル等人ノ身體ヲ殘

毀シテ不具ト為シタルヲ廢疾ニ致スノ罪トス此等

ノ者ハ其損傷スル所篤疾ニ比スレハ更ニ輕シ故ニ

之レヲ輕罪トナシ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處

ス

第三百一條

人ヲ毆打創傷シ二十日以上ノ時間疾病ニ罹リ又ハ職

業ヲ營ムル能ハサルニ至ラシメタル者ハ一年以上三

年以下、重禁錮ニ處ス

其疾病休業ノ時間二十日ニ至ラサル者ハ一月以上一年以下、重禁錮ニ處ス

疾病休業ニ至ラスト雖モ身體ニ創傷ヲ成シタル者ハ十一日以上一月以下ノ重禁錮ニ處ス

註本條ハ故意ヲ以テ人ヲ殴打シテ創傷疾病ニ致シタル者ノ罪ニシテ即チ人ヲ殴打創傷シ為メニ二十日以上ノ時間疾病ニ罹ラシメ又ハ其常職トスル所ノ生業ヲ營ムト能ハサルニ至ラシメタル時ハ其傷害廢疾ニ比スレハ更ニ輕シ故ニ一年以上三年以下ノ

重禁錮ニ處ス若シ其疾病休業ノ時間二十日以下ニ止ル時ハ其傷害仍ホ一層輕キヲ以テ一年以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス又々僅カニ身體ニ創傷ヲ成シタルノミニテ疾病休業ニ至ラサレハ其傷害最モ輕シ故ニ十一日以上一月以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百二條

豫メ謀テ人ヲ殴打創傷シ休業廢篤疾又ハ死ニ致シタル者ハ前數條ニ記載シタル刑ニ照シ各一等ヲ加フ註前三條ニ記載シタル所ハ臨時故意ヲ以テ人ヲ殴打創傷シタル罪ニシテ此條ハ其所為ノ豫謀ニ出タル

場合ヲ示ス即チ人ヲ殴打創傷セント豫メ其方法策
略ヲ謀リ之ヲ行ヒ因テ人ヲ死ニ致シ若クハ癡篤疾
ニ致シ又ハ疾病休業ニ致ラシメ或ハ創傷ヲ成シタ
ル者ハ其情状自カラ重シ故ニ前數條ニ記載シタル
刑ニ照シ各一等ヲ加ヘテ其罪ヲ處斷ス

第三百三條

重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル為メ又ハ已ニ犯シテ其罪
ヲ免カル、為メ人ヲ殴打創傷シタル者ハ亦前數條ノ
例ニ同シ

註 本條ハ第二百九十六條ト同一ノ主義ニシテ止タ故

殺ト殴打創傷トノ別アルノミナレハ說明ヲ要セス

第三百四條

殴打ニ因リ誤テ他人ヲ創傷シタル者ハ仍ホ殴打創傷
ノ本刑ヲ科ス

註 本條ハ第二百九十八條ト同一ノ主義ニシテ止タ謀
故殺ト殴打創傷ノ別アルノミナレハ茲ニ說明ヲ要
セス

第四百五條

二人以上共二人ヲ殴打創傷シタル者ハ現ニ手ヲ下シ
傷ヲ成ヌノ輕重ニ從テ各自ニ其刑ヲ科ス若シ共毆シ

テ傷ヲ成スノ輕重ヲ知ルヲ能ハサル時ハ其重傷ノ刑ニ照シ一等ヲ減ス但教唆者ハ減等ノ限ニ在ラス

註本條ハ二人以上共ニ連合シテ毆打創傷ノ罪ヲ犯シタル時ノ處分法ヲ定ム蓋シ總則共犯ノ例ニ照スハ二人以上現ニ罪ヲ犯セハ皆ナ正犯ト為シ各自ニ其刑ヲ科ス可キ者トス然レモ毆打創傷ノ罪ニ在テハ其犯罪ノ結果即チ創傷ノ輕重ニ因リ其罪ノ輕重ヲ定ムル者ナレハ即チ各人各一個ノ罪ヲ犯スト同シキヲ以テ之ヲ同刑ニ處スルヲ得ス何トナレハ今爰ニ甲乙二人共二人ヲ毆打シ甲ハ其一目ヲ瞎シ

乙ハ僅ニ創傷ヲ成シタルハ甲八人ヲ瘖疾ニ致シタル罪ニシテ二年以上五年以下ノ重禁錮ノ刑ニ該リ乙八人ヲ創傷シタルノミナレハ十一日以上一月以下ノ重禁錮ノ刑ニ該ル然ルニ總則ニ照セハ甲乙共ニ同刑ニ處セサルヲ得サルノ不權衡ヲ生ス故ニ此條特別法ヲ設ケ二人以上共二人ヲ毆打シ現ニ手ヲ下シ傷ヲ成シタル者ハ傷ノ輕重ニ從ヒ其罪ヲ論シ各自ニ其刑ヲ科ス然レモ若シ二人以上共ニ乱毆シ其傷ヲ成スノ輕重誰タルヲ知リ得サル時ハ各自ニ其罪ヲ論シ之レカ刑ヲ科スルヲ得サレハ其

中重傷ノ刑ニ照シ一等ヲ減シテ其罪ヲ論シ各犯人
ヲ同一ノ刑ニ處ス但シ敬唆者ハ減等セスシテ仍ホ
其重傷罪ノ本刑ニ處セラレヘキ者トス

第三百六條

二人以上共二人ヲ毆打スルニ當リ自ラ人ヲ傷セスト
雖氏幫助シテ傷ヲ成サシメタル者ハ現ニ傷ヲ成シタ
ル者ノ刑ニ一等ヲ減ス

註本條ハ自カラ手ヲ下シ人ヲ傷セスト雖氏他人ヲ幫
助シテ傷ヲ成サシメタル者ノ罪ニシテ例ヘハ甲乙
二人共二人ヲ毆打スルニ當リ甲自カラ人ヲ傷セス

ト雖氏乙ヲ幫助シテ傷ヲ成サシメタル時ハ固ヨリ
共犯者ナレハ其罪ヲ論セサル可カラス然レ氏前條
説ク所ノ主義ト同一ニシテ傷ヲ成シタル者ト同刑
ニ處スルハ少シク過酷タルヲ免レス故ニ從犯ノ權
衡ト同シク現ニ傷ヲ成シタル者ノ本刑ヨリ一等ヲ
減シテ其罪ヲ處斷ス

第三百七條

健康ヲ害ス可キ物品ヲ施用シテ人ヲ疾苦セシメタル
者ハ豫メ謀テ毆打創傷スルノ例ニ照シテ處斷ス
註本條ハ人ヲ殺スニ足ルヘキ毒質ナク止々其健康ヲ

害ス可キ物品ヲ施用シ為メ二人ヲシテ疾ミ且ツ苦シマシムル者ノ罪ニシテ此等ノ者ハ其所行タル頗ル残忍ニシテ其情狀甚タ惡ムヘシ故ニ其豫謀ニ係ルト否トヲ分タス第三百二條豫ノ謀テ殴打創傷スルノ例ニ照シテ其罪ヲ處斷ス

第三百八條

人ヲ殺スノ意ニ非スト雖氏詐稱誘導シテ危害ニ陥レ因テ疾病死傷ニ致シタル者ハ殴打創傷ヲ以テ論ス

〔註〕本條ハ第二百九十七條ト同主義ナリトス然レ氏同條ハ人ヲ殺スノ意ニ出テタル者ニ係ル故ニ謀故殺

ヲ以テ論シ若シ死ニ至ラサル時ハ謀故殺ノ未遂犯ト為シ本刑ニ一等又ハ二等ヲ減スルニ止ル本條ハ人ヲ殺スノ意ニ非サル者ニ係ルヲ以テ詐稱誘導シテ人ヲ危害ニ陥レ因テ疾病死傷ニ致シタル時ハ殴打創傷ヲ以テ其罪ヲ論シ第二百九十九條以下ノ各本條ニ照シ處斷ス彼此レ殺意ノ有無ニ因テ其罪ノ輕重大ニ差等アリトス

第三節 殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不論罪

〔註〕此節ハ特別ノ宥恕減輕及ヒ不論罪ノ例ヲ掲クル者ニシテ即チ專ラ人ヲ殺傷スル罪ニ關

シ適用ス可キ法則ヲ示ス

第三百九條

自己ノ身體ニ暴行ヲ受クルニ因リ直チニ怒ヲ發シ暴行人ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス但不正ノ所爲ニ因リ自ラ暴行ヲ招キタル者ハ此限ニ在ラス

〔註〕本條ハ自己ノ身體ニ對シ他人ヨリ殴打創傷脅迫制縛其他ノ暴行ヲ受クルニ因リ直チニ憤怒ヲ發シ其暴行人ヲ殺死シ若クハ創傷シタル者ノ罪ニシテ此レ其所爲タル暴行人ニ挑撥セラレ憤怒ニ耐ヘスシテ之ヲ犯シタル者ナレハ其情尋常ノ人ヲ殺傷スル

者ト異ナリ故ニ其罪ヲ宥恕シ本刑ニ二等又ハ三等ヲ減ス蓋シ此條直チニノ字最モ注意ヲ要ス若シ即時ニ非ラスシテ多少ノ時間ヲ經テ其思慮ヲ爲スニ足ルヘキ者ハ其罪ヲ宥恕ス可ラス又タ本條ニ示ス如ク己レ不正ノ所爲アルニ因テ自ラ他人ヨリ暴行ヲ招キタル時ハ挑撥セラレ、者ニ非ラサレハ其罪ヲ宥恕スルノ限ニアラストス

第三百十條

殴打シテ互ニ創傷シ其手ヲ下スノ先後ヲ知ル得サル者ハ各其罪ヲ宥恕スルヲ得

註本條ハ二人互ニ殴打シテ創傷ヲ成シタル時其孰レ
 カ先ニ手ヲ下シタルヲ知ル能ハサルニ方リ其罪ヲ
 宥怒スルノ方法ヲ示ス夫レ此等ノ者ハ各其傷ノ輕
 重ニ從ヒ相當ノ刑ヲ科スヘキ者ナレ氏其情狀ニ因
 リ裁判官ノ意見ヲ以テ各其罪ヲ宥怒シ本刑ニ二等
 又ハ三等ヲ減スルヲ得ヘキ者トス

第三百十一條

本夫其妻ノ姦通ヲ覺知シ姦所ニ於テ直チニ姦夫又ハ
 姦婦ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥怒ス但本夫先ニ姦通
 ヲ縱容シタル者ハ此限ニ在ラス

註本條ハ本夫タル者其妻ノ現ニ入ト姦通スルヲ撞見
 シ姦所ニ於テ即時ニ姦夫又ハ姦婦ヲ殺死シ若クハ
 創傷シタル者ノ罪ニシテ此等ノ者一時暴怒ノ餘リ
 直チニ兇行ヲ為スハ此レ人情ノ免カレ難キ所且ツ
 本夫タルノ權ヲ侵損セラル者ナレハ其罪ヲ宥怒シ
 テ本刑ニ二等又ハ三等ヲ減ス但シ本夫他ニ事情ア
 リテ先キニ其妻ノ姦通ヲ縱容シタル時ハ本夫ニ於
 テモ過失ナシトセス故ニ其罪ヲ宥怒セサル者トス

第三百十二條

晝間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入り若クハ門戶牆

壁ヲ踰越損壞セントスル者ヲ防止スル為メ之ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス

〔註〕本條ハ晝間故ナク人ノ住所ヲ侵ス者ヲ防止スル為

メ之ヲ殺傷シタル者ノ罪ニシテ濫リニ人ノ住居シ

タル邸宅ニ侵入シ若クハ門戸牆壁ヲ踰越損壞スル

カ如キ其惡業ヲ為スノ目的タルヲ知ル可キナリ故

ニ之ヲ防禦制止スル為メ其者ヲ殺死シ若クハ創傷

シタル者ナレハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ二等又ハ三

等ヲ減ス若シ夜間ニ條ル時ハ其罪ヲ論セサル者ト

ス蓋シ此等ノ所為ハ自己ノ身體及ヒ財産ヲ防衛ス

ル為メニ出タル者ナレハ晝間ニ條ルト夜間ニ條ルトヲ分タス其罪ヲ論セスシテ可ナラン然ルニ本條其罪ヲ科スル者ハ何ソヤ是レ晝間ニ於テハ之ヲ防ク一容易ニシテ敢テ殺傷ヲ為サスト雖氏他ニ防禦ノ方法ナキニ非サレハ未タ已ムヲ得サルニ出テタル者ト云フ可カラス故ニ其罪ヲ論シ之ニ宥恕ヲ與フル者トス

第三百十三條

前數條ニ記載シタル宥恕ス可キ罪ハ各本刑ニ照シニ等又ハ三等ヲ減ス

註本條ハ第三百九條以下各條ニ其罪ヲ宥怒ストアルハ即チ各本刑ヨリ二等又ハ三等ヲ減輕スルヲ云フ

第三百十四條

身體生命ヲ正當ニ防衛シ己ムヲ得サルニ出テ暴行人ヲ殺傷シタル者ハ自己ノ為メニシ他人ノ為メニスルヲ分タス其罪ヲ論セス但不正ノ所為ニ因リ自ラ暴行ヲ招キタル者ハ此限ニ在ラス

註前數條ニ記載スル所ハ宥怒減輕ノ場合ニシテ本條及ヒ次條ハ不論罪ノ場合ヲ示ス而シテ此條ハ他人ヨリ不正ナル暴行ヲ受ケ自己又ハ他人ノ身體生命

ヲ害セラレントスル危急ニ際シ他ニ救援ヲ求ムルノ術ナク又夕遁ルノ路ナク己ムヲ得ス正當ニ之ヲ防衛スル為メ其暴行人ヲ殺死シ又ハ創傷シタル者ヲ云フ此等ノ者ハ其罪ヲ論セサル者トス何トナレハ此レ所謂ル正當防禦ノ權ニシテ蓋シ人タル者ハ其身體生命ヲ保護スルノ權ヲ有スルハ天賦自然ノ道理ナリ故ニ非理ノ暴行ヲ受ケ之ヲ正當ニ防衛スル為メ人ヲ殺傷スルモ固ヨリ罪ス可キ所ナシ但シ己レ不正ノ所為アリテ為メニ自カラ暴行ヲ招キタル者ハ之ヲ正當ト云フ可カラス故ニ其罪ヲ論シ

之ヲ不問ニ措クヲ得サル者トス

第三百十五條

左ノ諸件ニ於テ已ムヲ得サルニ出テ人ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ論セス

一 財産ニ對シ放火其他暴行ヲ為ス者ヲ防止スルニ出タル時

二 盜犯ヲ防止シ又ハ盜賊ヲ取還スルニ出タル時

三 夜間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入り若クハ門戸牆壁ヲ踰越損壞スル者ヲ防止スルニ出タル時

註 本條ハ自己ノ財産ニ對シ侵害ヲ受ケ又ハ身體財産

ニ對シ危害ヲ被ラントスル恐レアル時ニ當リ之ヲ防衛スル為メ已ムヲ得スシテ人ヲ殺傷シタル者ヲ云フ即チ左ニ記載シタル第一項第二項ノ場合ハ專ラ財産ニ關シ第三項ノ場合ハ身體及ヒ財産ニ關ス但シ此場合ハ前條ノ如ク直接身體生命ニ害ヲ受クル者トハ少シク異ナリトス

夫レ財産ハ各人ノ生存榮養ヲ保全スル者ニシテ其貴重ナル一固ヨリ言フ埃タス然ルニ暴行ヲ以テ非理ニ之ヲ侵奪損害セントスルニ當リ他ニ之ヲ防衛スルノ術ナク已ムヲ得スシテ其暴行人ヲ殺傷スル

者ハ亦タ其罪ノ論ス可キ者ナシ故ニ之レヲ無罪ト
為ス

一此項ハ自己ノ財産ニ對シ晝間ト夜間トヲ分タス
放火毀壞其他ノ暴行ヲ為ス者ヲ防止スル為メ其
暴行人ヲ殺傷シタル場合ヲ云フ

二此項モ晝間ト夜間トヲ分タス強竊盜ノ財物ヲ盜
取セントスルヲ防止シ又ハ己ニ盜取シタル贓物

ヲ取還スル為メ其盜犯ヲ殺傷シタル場合ヲ云フ

三此項ハ夜間故ナク人ノ住所ヲ侵ス者ヲ防止スル
為メ之ヲ殺傷シタル場合ニシテ夜間濫リ二人ノ

邸宅内ニ入り若クハ門戸牆壁ヲ踰越損壞スル者
ノ如キハ人ノ身體生命ヲ害セントスルカ或ハ財
産ヲ害セントスルノ目的タル知ルヘシ且夜間ニ
在テハ他ノ救援ヲ請フ難ク其危害大ナリ故ニ
之ヲ防止スル為メ其犯人ヲ殺傷スル者ハ其罪ヲ
論セサル者トス

第三百十六條

身體財産ヲ防衛スルニ出ルト雖モ己ムヲ得サルニ
非スシテ害ヲ暴行人ニ加ヘ又ハ危害己ニ去リタル後
ニ於テ勢ニ乘シ仍ホ害ヲ暴行人ニ加ヘタル者ハ不論

罪ノ限ニ在ラス但情状ニ因リ第三百十三條ノ例ニ照シ其罪ヲ宥恕スルヲ得

〔註〕本條ハ前二條ニ記載シタル身體又ハ財産ニ對シ暴行ヲ受ケタル時之ヲ防衛スルニ出ルト雖モ必スシモ殺傷ヲ加ヘスシテ他ニ之ヲ防ク可キノ路アリ實ニ己ムヲ得サル危急ノ場合ニ非ラスシテ其暴行人ヲ殺傷シ又ハ彼レ畏怖シテ逃走シ或ハ己ニ拘執ニ就ク等危害已ニ去リタル後チニ於テ其勢ニ乘シテ暴行人ヲ殺傷シタル者ヲ云フ此等ノ者ハ己ムヲ得サルニ出テタル者ニ非サレハ之ヲ無罪ト為ス

ヲ得ス即チ故意ヲ以テ人ヲ殺傷シタル罪ト為シテ論ス但シ其情状ニ因リ裁判官ノ意見ヲ以テ第三百十三條ノ例ニ照シ其罪ヲ宥恕シ本刑ニ二等又ハ三等ヲ減スルヲ得ヘキ者トス

第四節 過失殺傷ノ罪

〔註〕此節ハ惡意ニ出テタルニ非ラス全ク過失ニ因リ人ヲ殺傷シタル者ノ罪ニシテ過失トハ即チ疎^キ疎^ク解^ル怠^ル又ハ規則^ヲ慣^習ヲ^モ遵守^セサルニ原因スル者ヲ云フ蓋シ惡意ニ出テサル所為即チ罪ヲ犯スノ意ナキ所為ハ之ヲ罪トシ罰

セサルハ法律ノ原則ナリ然ルニ此節過失ニ
因リ人ヲ殺傷シタル者ノ罪ヲ問フハ何ソヤ
是レ固ヨリ惡意ナキ者ト雖モ其所為タル則
チ疎虞懈怠又ハ規則慣習ヲ遵守セサルニ原
因シ遂ニ貴重ナル人ノ身體生命ヲ傷害スル
ノ結果ヲ生スルニ至ルヲ以テ犯人ニ於テモ
怠慢不注意ノ責アリ故ニ之ヲ懲戒スル為メ
之ヲ罰スル者トス然レモ惡意アルニ非サレ
ハ其罪自カラ輕シ若シ上文説ク所ノ原因ナ
クシテ實二人ノ思慮ノ及ハサルニ出タル所

為ハ総則第七十七條第一項ニ掲クル者ニシ
テ其罪ヲ論セス之ヲ無罪トス
第三百十七條

疎虞懈怠又ハ規則慣習ヲ遵守セス過失ニ因テ人ヲ死
ニ致シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス
註 本條ハ過失ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ノ罪ニシテ
疎虞トハ知識アル者心ヲ用エヘキニ用ヒサルヲ云
フ例ヘハ行人雜沓ノ市街ニ於テ車馬ヲ疾驅シ人ヲ
觸倒シ或ハ人ノ通行スルヲ知ラス窗ヨリ物ヲ投シ
人ニ當ルノ類懈怠トハ其當然為ス可キヲ怠リ為サ

ザルヲ云フ例ハ八鍬道ノ守線手瀉車通行ノ際傍經ノ門扉ヲ鎖スヲ怠リ人ノ來テ壓倒セラル、類規則ヲ遵守セサルトハ一般ノ法令ニ違背シタル者ヲ云フ例ハ火藥運搬規則ニ違背シテ火藥ヲ運送シ因テ破裂シタル類慣習トハ從來慣用シ來ル風習ヲ云フ此等ノ原因アツテ人ヲ死ニ致シタル者ハ其害大ナリト雖凡全ク過失ニ出タル者ナレハ其情輕シ故ニ止メ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百十八條

過失ニ因テ人ヲ創傷シ癡篤疾ニ致シタル者八十圓以

上百圓以下ノ罰金ニ處ス

註本條ハ過失ニ因テ人ヲ創傷シ癡篤疾ニ致シタル者ハ其情前條ヨリ輕シ故ニ二十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處スルヲ云フ但シ此條及ヒ次條共疎虞懈怠云々ノ文ヲ記載セスシテ止メ過失トノミアルハ前條ヲ承ケテ省略スル者トス

第三百十九條

過失ニ因テ人ヲ創傷シ疾病休業ニ至ラシメタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

註本條ハ過失ニ因テ人ヲ創傷シ疾病休業ニ至ラシメ

タル者ハ其情更ニ輕シ故ニ二圓以上五十圓以下ノ
罰金ニ處スルヲ云フ但シ疾病休業ニ至ラスシテ身
體ニ創傷ヲ為シタルノミニテハ本條ヲ以テ其罪ヲ
問フコトヲ得ス

第五節 自殺ニ關スル罪

〔註〕此節ハ人ヲ教唆シ又ハ自殺者ヲ補助シテ自
殺ヲ為サシメタル者ノ罪ヲ云フ夫レ人自カ
ラ其生命ヲ殺害スルハ天理人道ニ背悞スル
ノ甚シキ者ト云フヘシ然ルニ之ヲ教唆シ之
ヲ補助シテ自殺ヲ為サシムル者ハ其罪ヲ不

問ニ措ク可カラス然リ而シテ自殺者ノ罪ヲ
問ハサル者ハ何ソヤ自殺者ハ其既ニ自殺シ
タルヲ以テ之ヲ罰スルモ益ナキノミナラス
之ヲ罰スルコトヲ得サルナリ假令ヒ未タ自殺
ヲ遂ケサル者ト雖モ已ニ其生命ヲ自棄シテ
殺害セントスル者ニ至テハ之ヲ罰スルニ其
方法ナキノミナラス之ヲ罰シテ其効ヲ見サ
ルヘシ故ニ其罪ヲ問ハサル者トス然レモ此
等ノ者ハ之ヲ教戒スルノ道ナキニ非サルモ
固ヨリ刑典上ニ於テ論ス可キ事ニ非サレハ

此ニ贅セズ

第三百二十條

人ヲ教唆シテ自殺セシメ又ハ囑託ヲ受ケテ自殺人ノ為メニ手ヲ下シタル者ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其他自殺ノ補助ヲ為シタル者ハ一等ヲ減ス

註本條ハ他人ヲシテ自殺ノ決心ヲ為シ自殺セシメタル者又ハ自殺者ノ依頼ヲ受ケ為メニ手ヲ下シ之カ介錯ヲ為シタル者ノ罪ニシテ此等ノ者ハ其所為タル重大ナリト雖モ固ヨリ惡意アルニ非ラスシテ多

クハ情義ニ迫リ氣節ヲ重ニスルヨリ出ル者ナレハ其罪状自カラ恕ス可キ所アリ故ニ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其他自殺ノ補助ヲ為シタル者トハ例ハハ自殺ヲ為スノ器具及ヒ房室ヲ給與シタル等ヲ云フ此等ノ者ハ教唆者又ハ加功者ニ非サレハ其情更ニ輕シ故ニ一等ヲ減シテ其罪ヲ處斷ス

第三百二十一條

自己ノ利ヲ圖リ人ヲ教唆シテ自殺セシメタル者ハ重懲後ニ處ス

註此條ハ自己ノ利益ト為ルヘキ為メ故サラ二人ヲ教唆シテ自殺セシメタル者ノ罪ニシテ此等ノ者ハ間接二人ヲ害スルノ念慮アル者ナレハ其情大ニ惡ムヘシ隨テ其罪前條ヨリ重シ故ニ重罪ト為シテ重懲後ニ處ス

第六節 擅ホシ二人ヲ逮捕監禁スル罪

註此節ハ正當ノ威權ナキ者即チ常人ニシテ私擅二人ヲ逮捕シ又ハ監禁シ其自由ヲ害シタル者ノ罪ヲ云フ蓋シ人ヲ逮捕シ又ハ監禁スルハ法律ニ於テ之ヲ為スノ權威ヲ有シタル

者ニシテ且ツ一定ノ法式ヲ履行スルニ非サレハ決シテ之ヲ為スヲ得サル者トス然ルニ常人擅ニ此等ノ事ヲ為シタル時ハ之ヲ罰セサル可カラズ但シ官吏職務上ニ於テ此等ノ罪ヲ犯シタル者ハ第二百七十八條乃至二百八十條ニ依ル然レモ其職務ニ非ラスシテ犯シタル者ハ仍ホ此節ニ依テ其罪ヲ處斷ス

第三百二十二條
擅二人ヲ逮捕シ又ハ私家ニ監禁シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰

金ヲ附加ス但監禁日數十日ヲ過クル毎二一等ヲ加フ
 註本條ハ常人私擅二人ヲ逮捕シ又ハ私家ニ監禁シタ
 ル者ノ罪ヲ云フ此等ノ者ハ人ノ自由ヲ害シ公權ヲ
 侵ス者ナレハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ
 二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ其監禁シ
 タル日數十日ヲ經過スルキハ十日毎二一等ヲ加ヘ
 テ其罪ヲ處斷ス然レモ治罪法第百五條ノ場合即チ
 何人ニ限ラス重罪輕罪ノ現行犯アル場合ニ於テハ
 直チニ被告人ヲ逮捕スルヲ得ルトアルハ格別ナ
 リトス宜シク同條ノ註解ヲ參者ス可シ

第三百廿三條

擅二人ヲ監禁制縛シテ毆打拷責シ又ハ飲食衣服ヲ屏
 去シ其他苛刻ノ所爲ヲ施シタル者ハ二月以上二年以
 下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加
 ス
 註本條ハ前條ヨリ仍ホ一層其犯状ノ重キ場合ニシテ
 擅二人ヲ監禁シ又ハ制縛シタル上或ハ之ヲ毆打シ
 若クハ拷責シ又ハ其飲食物及ヒ衣服ヲ屏去シ其他
 苛刻ノ所爲トハ如何ナル方法ヲ問ハス其者ヲ痛苦
 セシムル所爲ヲ云フ此等ノ者ハ其情甚タ惡ム可シ

故ニ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百二十四條

前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

〔註〕本條ハ擅ニ人ヲ監禁制縛シテ毆打拷責シ又ハ服食ヲ屏去シ其他苛酷ノ所爲ヲ施シ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シタル者ノ罪ニシテ此等ノ場合ハ前條ノ罪ト第百九十九條以下毆打創傷ノ各本條ニ記載シタル罪ト比照シ一ノ重キニ從ヒ其罪ヲ處斷スルヲ云

フ

第三百二十五條

擅ニ人ヲ監禁シ水火震災ノ際其監禁ヲ解クヲ怠リ因テ死傷ニ致シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

〔註〕本條ハ擅ニ人ヲ監禁シ水火震災ノ際ニ當リ怠慢ニシテ其監禁ヲ解放セズ為メニ其者ヲシテ死傷ニ致シタル者ノ罪ニシテ此等ノ者ハ其罪狀前條ノ者ト輕重ナシ故ニ前條ノ例ニ照シテ其罪ヲ處斷ス但シ此條「怠リ」ノ字最モ注意ヲ要ス若シ怠リニ非ラスシテ實際已ムトヲ得サルニ出タル時ハ其死傷ニ致シ

タル罪ハ本條ニ依リ之ヲ論スルヲ得ス

第七節 脅迫ノ罪

〔註〕此節ハ文書又ハ言語ヲ以テ人ヲ恐嚇シテ畏

怖セシムル罪ヲ云フ蓋シ脅迫罪ハ其脅迫ス

ル所ノ事ニ付其結果ノ如何ヲ問ハス止夕其

人ヲ畏怖セシメタルノミヲ以テ其罪ノ成立

シタル者トス若シ脅迫シテ遂ニ暴行ニ及ヒ

タル者ハ即チ各其所為ニ就キ罪ヲ論ス可キ

者ニシテ此節ニ依テ論スヘキ者ニアラス

第三百二十六條

人ヲ殺サンハ脅迫シ又ハ人ノ住居シタル家屋ニ放火
セント脅迫シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ
處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

毆打創傷其他暴行ヲ加ヘント脅迫シ又ハ財産ニ放火
シ及ヒ毀壞劫掠セント脅迫シタル者ハ十一日以上二
月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附
加ス

〔註〕本條第一項ハ文書又ハ言語ヲ以テ或ル事ヲ為サシ

メ又ハ或ル契約ヲ行ハシメ若クハ或ル物ヲ交付セ

シメ其他求為スル所ノ事ヲ成就セシムル為メ又ハ

其者ヲ威逼スル為メ人ヲ謀殺或ハ毒殺セント脅迫
シ又ハ人ノ住居シタル家屋ヲ放火セント脅迫シタ
ル者ノ罪ニシテ此等ノ者ハ人ニ畏怖恐懼ノ念ヲ起
サシメ其安寧ヲ害スルヲ以テ一月以上六月以下ノ
重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第二項ハ人ヲ殴打創傷シ其他監禁制縛等ノ暴行ヲ
加ヘント脅迫シ又ハ人ノ財産ニ放火シ及ヒ毀壞劫
掠セント脅迫シタル者ノ罪ニシテ財産トハ人ノ住
居セサル家屋其他ノ建造物及ヒ船舶又ハ諸般ノ動
産不動産ヲ云フ此等ノ者ハ前條ニ比スレハ其情稍

輕シ故ニ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓
以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百二十七條

兇器ヲ持シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ
註本條ハ前條ヨリ其罪状更ニ重キ者ニシテ兇器ヲ持
シテ前條ニ記載シタル脅迫ヲ為シタル時ハ被害者
ヲシテ畏怖恐懼セシムルヲ最モ甚シク且ツ其情惡
ムヘシ故ニ一等ヲ加重シテ之ヲ處斷ス

第三百二十八條

親屬ニ害ヲ加フ可キ事ヲ以テ脅迫シタル者ハ亦前二

條ノ例ニ同シ

〔註〕本條ハ被害者ノ親屬ノ身體又ハ財産ニ對シ害ヲ加
フ可キ事ヲ以テ脅迫ヲ為シタル者ノ罪ヲ云フ親屬
トハ第百十四條第百十五條ニ記列スル所ノ者ヲ總
稱ス蓋シ該條ニ掲載スル者ハ自カラ親疎ノ別アリ
ト雖氏就中祖父母父母子孫兄弟姉妹及ヒ配偶者等
ノ如キニ至テハ其愛情殊ニ厚キモノナレハ此等ノ
者ニ對シ害ヲ加フ可キ事ヲ以テ脅迫セララル、時ハ
其感觸ヲ生スル直チニ自己ニ脅迫ヲ受ルニ異ナル
トナシ故ニ前二條ノ例ニ照シ其罪ヲ處斷ス可キ者

トス

第三百二十九條

此節ニ記載シタル罪ハ脅迫ヲ受ケタル者又ハ其親屬
ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

〔註〕本條ハ脅迫罪ハ被害者又ハ其親屬ノ告訴アルニ非
サレハ其罪ヲ論セサルヲ云フ何トナレハ脅迫ハ其
被害者ノ氣力即チ勇怯強弱ニ因リ其感觸ヲ生スル
同シカラス例ヘハ婦女子ノ如キハ微少ノ脅迫モ大
ニ畏怖ノ念ヲ起シ又タ強勇ナル男夫ハ重劇ナル脅
迫モ更ニ意トセサル等各ク其人ニ因テ畏怖ノ度異

ナルヲ以テ被害者ヨリ其事ヲ説明スルニ非サレハ
他ヨリ之ヲ知り難ク隨テ告發スルヲ得サルヲ以
テナリ

第八節

墮胎ノ罪

〔註〕此節ハ藥物其他ノ方法ヲ以テ懷妊ノ婦女自
カラ墮胎シ又ハ藥物其他ノ方法若クハ威逼
誑騙シ或ハ殴打其他ノ暴行ヲ加ヘ懷妊シタ
ル婦女ヲシテ墮胎セシメタル者ノ罪ヲ云フ
蓋シ人命ハ至重假令ヒ胎兒ト雖氏之ヲ戕害
スル固ヨリ其罪ナシトセス且ツ之ヲ冥々ノ

問ニ於テ墮胎セシムル者ナレハ其戕害モ亦
タ甚シ然レ氏之ヲ一般人ヲ殺スノ罪ト同視
ス可カラス何トナレハ未タ社會ニ出頭シ人
類ニ列セサル者ナレハ茲ニ此一節ヲ設ケ別
ニ其罪ヲ掲クル者トス

第三百三十條

懷胎ノ婦女藥物其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタル者ハ一
月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

〔註〕本條ハ懷妊シタル婦女藥物其他種々ノ方法ヲ以テ
自カラ墮胎シタル者ノ罪ニシテ此レ多クハ處女寡

婦ノ密ニ人ト姦通シテ懐胎ニ及ヒ其之ヲ世ニ公ニ
スルヲ耻チ或ハ貧困ノ者ニシテ之ヲ養育スルノ難
キニ苦シミ遂ニ之ヲ犯スニ至ル者ナレハ其情稍恕
ス可キアリ故ニ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百三十一條

藥物其他ノ方法ヲ以テ墮胎セシメタル者ハ亦前條ニ
同シ因テ婦女ヲ死ニ致シタル者ハ一年以上三年以下
ノ重禁錮ニ處ス

註本條ハ藥物又ハ其他ノ方法ヲ以テ懷妊ノ婦女ヲシ
テ墮胎セシメタル罪ニシテ此レ亦タ多ク父母兄弟

若クハ本夫或ハ私通ノ夫等其名譽ニ關シ又ハ貧困
ニ迫リ婦女ニ教令シ若クハ同謀シテ墮胎セシメタ
ル者ナレハ其情前條ト異ナルヲナシ故ニ同一ノ刑
ニ處ス若シ墮胎セシメ因テ婦女ヲシテ死ニ致シタ
ル時ハ其情自カラ重シ故ニ一年以上三年以下ノ重
禁錮ニ處ス

第三百三十二條

醫師穩婆又ハ藥商前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ
加フ

註本條ハ醫師穩婆又ハ藥商ヲ業トスル者藥物其他ノ

方法ヲ以テ懷妊ノ婦女ヲシテ墮胎セシメタル時ノ罪ニシテ此等ノ者ハ人ノ健康生育ヲ保護スヘキノ職業ナルニ却テ其責任ニ背キ墮胎セシムルカ如キ其情甚々重シ故ニ前條ニ記載シタル刑ニ各一等ヲ加ヘテ其罪ヲ處斷ス

第三百三十三條

懷胎ノ婦女ヲ威逼シ又ハ誑騙シテ墮胎セシメタル者ハ一年以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

註本條ハ婦女ノ墮胎ヲ為スヲ肯セサル者ニ威カヲ以テ強逼シ又ハ欺瞞誑騙シ藥物其他ノ方法ヲ以テ墮胎

胎セシメタル者ノ罪ニシテ此等ノ者ハ其情惡ム可シ故ニ一年以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百三十四條

懷胎ノ婦女ナルヲ知テ毆打其他暴行ヲ加ヘ因テ墮胎ニ至ラシメタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス其墮胎セシムルノ意ニ出タル者ハ輕懲役ニ處ス

註本條ハ懷胎シタル婦女ナルヲ知テ之ヲ毆打シ其他暴行ヲ加ヘ為メニ墮胎ニ至ラシメタル者ノ罪ニシテ婦女ノ懷胎スル時ハ最モ攝養愛護ヲ要ス然ルニ其身體ニ暴行ヲ加ヘ墮胎ニ至ラシムルカ如キハ

其罪状更ニ重シ故ニ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス若シ始メヨリ墮胎セシムルノ意アツテ故サラニ毆打其他ノ暴行ヲ加ヘ因テ墮胎セシメタル者ハ其情状最モ重シ仍テ之ヲ輕懲後ニ處ス

第三百三十五條

前二條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ廢篤疾又ハ死ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス
註本條ハ第三百三十三條及ヒ第三百三十四條ニ記載シタル罪ヲ犯シ因テ婦女ヲシテ廢疾篤疾又ハ死ニ致シタル者ハ第二百九十九條以下毆打創傷罪ノ各

本條ニ照シ一ノ重キニ從ヒ其罪ヲ處斷スルヲ云フ

第九節 幼者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪

註此節ハ八歳未満ノ幼者又ハ老年ニ及ヒタル

者若クハ疾病ニ罹リタル者ニシテ自ラ生活スル能ハサル者ヲ養育扶助セスシテ之ヲ遺棄シタル者ノ罪ヲ云フ

第三百三十六條

八歳ニ滿サル幼者ヲ遺棄シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

自ラ生活スルヲ能ハサル老若疾病者ヲ遺棄シタル者

亦同シ

註本條第一項ハ齡未タハ歳ニ滿サル無智ノ幼者ヲ遺棄シタル者ノ罪ヲ云フ此レ多クハ貧困ニシテ其子ヲ養育スル能ハスシテ之ヲ棄テ窮カニ人ノ拾収保^{シテ}育ヲ乞ハント欲スル者ニシテ之ヲ害スルノ意ニ出^ズテタル者ニ非サレハ其情大ニ輕シ故ニ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第二項ハ老年ニ及ヒ又ハ廢篤疾其他疾病ニ罹リ人ノ保護ヲ得サレハ自カラ生活スル能ハサル者ヲ遺棄シタル者ノ罪ヲ云フ此等ノ者モ前項ト其情狀異

ナル所ナケレハ同一ノ刑ニ處スル者トス但シ老者トハ何歳以上ノ定限ナク唯々老年ニ及ヒ衰弱シテ自カラ生活スル能ハサルニ至リシ者ヲ云フ

第三百三十七條

八歳ニ滿サル幼者又ハ老疾者ヲ^{レウダキ}寥^{シク}闕無人ノ地ニ遺棄シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

註本條ハ八歳ニ滿タサル幼者又ハ老年ニ及ヒ若クハ疾病ニ罹リタル者ヲ寥闕ニシテ人ノ來往スルナキ地ニ遺棄シタル者ノ罪ヲ云フ此等ノ地ニ遺棄スル時ハ其者他ノ救助ヲ得ルヲ能ハス加之ノミナラス

猛獸等ノ為メ危害ヲ受ケルノ恐レアリ其所為ノ殘忍ナル前條ノ比ニ非ラスシテ其情狀甚々重シ故ニ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百三十八條

給料ヲ得テ人ノ寄託ヲ受ケ保養ス可キ者前二條ノ罪ヲ犯シタル時ハ各一等ヲ加フ

註本條ハ人ヨリ幼者又ハ老疾者ヲ保護養育ス可キ寄託ヲ受ケ之カ為メ其給料ヲ得ル者ニシテ前二條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル時ヲ云フ此等ノ者ハ利慾ヲ貪リ保養ス可キノ義務ニ背キ其情狀甚々惡ム可

シ故ニ前二條ノ刑ニ各一等ヲ加ヘテ其罪ヲ處斷ス
第三百三十九條

幼者老疾者ヲ遺棄シ因テ廢疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處シ篤疾ニ致シタル者ハ重懲役ニ處シ死ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處ス

註前數條ハ幼者又ハ老疾者ヲ遺棄シタルノ罪ニシテ本條ハ遺棄シタルニ因リ其者凍餒シ若クハ猛獸ニ害セラレ為メ廢篤疾又ハ死ニ致シタル者ノ罪ヲ云フ此レ故意ニ出タル者ト異ナレ氏全ク遺棄シタルニ原因シ此結果ヲ生セシ者ナレハ其情狀自カラ

重シ故ニ廢疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ篤疾ニ致シタル者ハ重懲役ニ死ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處シ之ヲ嚴罰ス但シ本條ニ於テハ寥闕無人ノ地ナルト否トヲ問ハス同刑ニ處ス可キ者トス

第三百四十條

自己ノ所有地又ハ看守ス可キ地内ニ遺棄セラレタル幼者老疾者アルヲ知テ之ヲ扶助セス又ハ官署ニ申告セサル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス若シ疾病ニ罹リ昏倒スル者アルヲ知テ扶助セス又ハ申告セサル者亦同シ

註

本條ハ自己ノ所有スル地内或ハ看守スヘキ責アル地内ニ於テ幼者老疾者ノ遺棄セラレタル者又ハ忽然疾病ニ罹リ昏倒スル者アルニ當リ之ヲ救助セス又ハ官署ニ申告セサル者ノ罪ヲ云フ此等ノ者ハ唯タ其煩勞ヲ嫌避シテ地主看守者タルノ務ヲ盡サ、ル者ナレハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

第十節 幼者ヲ畧取誘拐スル罪

註 此節ハ暴行ヲ以テ幼者ヲ劫略奪取シ又ハ

欺奸謀ヲ以テ幼者ヲ誘拐シテ自ラ藏匿シ若

クハ人ニ交付シタル罪ヲ云フ

第三百四十一條

十二歳ニ滿サル幼者ヲ畧取シ又ハ誘拐シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

註本條ハ年齢十二歳ニ滿タスシテ其知識ノ未タ充全

ナラサル幼者ヲ畧取シ又ハ誘拐シテ自カラ已レノ家ニ藏匿シ又ハ他人ニ交付シタル者ノ罪ニシテ此等ノ者ハ畧取セラル、モ自カラ其暴行ヲ拒ムノ力ナク又々誘拐セラル、モ其事ノ善惡利害ヲ識別ス

ルノ才能ナケレハ之ヲ畧取誘拐シ易シ故ニ幼者ヲ略誘シテ藏匿交付シタル者ハ其情状甚々重キヲ以テ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百四十二條

十二歳以上二十歳ニ滿サル幼者ヲ畧取シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其誘拐シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下

ノ罰金ヲ附加ス

〔註〕本條ハ十二歳以上二十歳未滿ノ幼者ニ對シ前條ノ罪ヲ犯シタル者ヲ罰スルノ條ニシテ其刑前條ヨリ稍輕キ所以ハ凡ソ人十二歳以上ニ至レハ其體力智識隨テ生長スルヲ以テ其略誘ヲ防拒シ且ツ事ノ善惡利害ヲ識別スルヲ得レハ之ヲ略誘スル者ニ於テモ亦タ自カラ行ヒ難キヲ以テナリ又タ略取ト誘拐トニ依リ其刑ヲ區別スル所以ハ其承諾ヲ得ス暴行ヲ以テスルト其承諾ヲ得テ之ヲ誘引スルト其情狀稍異ナレハナリ故ニ略取シテ藏匿交付シタル者ハ

一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加シ誘拐シテ藏匿交付シタル者ハ其罪ヲ減シ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百四十三條

畧取誘拐シタル幼者ナルヲ知テ自己ノ家屬僕婢ト為シ又ハ其他ノ名稱ヲ以テ之ヲ收受シタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

〔註〕本條ハ前條ニ掲ケル所ノ略取誘拐シタル幼者ナルヲ知テ其略誘者ヨリ之ヲ收受シテ自己ノ家屬僕

婢ト為シ又ハ其他種々ノ名稱ヲ以テ之ヲ收受シタル者ハ自カラ畧誘シタルニ非サレハ其情前條ノ者ヨリ輕シ故ニ前二條ニ照シ各一等ヲ減シテ其罪ヲ處斷ス

第三百四十四條

前數條ニ記載シタル罪ハ被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス但畧取誘拐セラレタル幼者式ニ從テ婚姻ヲ為シタル時ハ告訴ノ效ナシ

註本條ハ前三條ニ記載シタル畧取誘拐ノ罪ハ被害者又ハ被害者ノ親屬ヨリ其事件ヲ告訴シタル時ニ非

サレハ其罪ヲ論セサルヲ云フ蓋シ此等ノ事ハ大人ノ名譽ニ關スルヲ以テ被害者及ヒ其親屬ハ之ヲ發シテ其上ニ公ニスルヲ耻ツルヲアラン然ルニ他ヨリ之ヲ告發セハ却テ其害ヲ為スニ至ル故ニ被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論スル者トス但シ略誘セラレタル幼者通常ノ法式ニ從テ婚姻ヲ為シタル時ハ親屬ヨリ告訴ヲ為スモ其効ナキ者トス

第三百四十五條

二十歳ニ滿サル幼者ヲ略取誘拐シテ外國人ニ交付シ

タル者ハ輕懲役ニ處ス

註本條ハ二十歳ニ滿タサル幼者ヲ略誘シテ外國人ニ交付シタル者ニシテ前條ニ比スレハ其罪甚タ重シ何トナレハ外國人ニ交付スルキハ之ヲ探知スルノ難ク又々幼者ニ於テモ復歸スルノ容易ナラス且ツ其困難ナルヲ知ルヘキナリ加之ナラス自國ノ人口ヲ減スルノ害アリ故ニ輕懲役ニ處シテ之レヲ嚴罰ス

第十一節 猥褻姦淫重婚ノ罪

註此節ハ猥褻強姦有夫姦重婚等ノ所行ヲ為シ

節操ヲ汚シ風儀ヲ紊スノ罪ヲ云フ

第三百四十六條

十二歳ニ滿サル男女ニ對シ猥褻ノ所行ヲ為シ又ハ十二歳以上ノ男女ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ猥褻ノ所行ヲ為シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

註本條ハ十二歳未滿ノ男女ノ身體ニ對シ猥褻ノ所行ヲ為シタル者又ハ十二歳以上ノ男女ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ猥褻ノ所行ヲ為シタル者ノ罪ヲ云フ蓋シ十二歳以下ニ在テハ其情慾未タ發セズ且ツ智力ノ

微弱ナルヲ以テ暴行脅迫セスト雖氏十二歳以上ノ者ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ為シタル罪ト同ク一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但シ猥褻トハ姦淫ヲ為スニ至ラサル淫事ノ所為ヲ云フ

第三百四十七條

十二歳ニ滿サル男女ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ猥褻ノ所行ヲ為シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

註本條ハ十二歳未滿ノ幼者ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ猥

褻ノ所行ヲ為シタルノ罪ニシテ此等ノ者ハ其情状更ニ重シ故ニ其刑モ亦タ嚴ナリ

第三百四十八條

十二歳以上ノ婦女ヲ強姦シタル者ハ輕懲役ニ處ス藥酒等ヲ用ヒ人ヲ昏睡セシメ又ハ精神ヲ錯亂セシメテ姦淫シタル者ハ強姦ヲ以テ論ス

註本條ハ十二歳以上ノ婦女ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ其承諾ヲ得ス強テ姦情ヲ遂ケタル者ノ罪ニシテ此等ノ所為ハ人ノ節操ヲ汚シ其風俗ヲ害スル最モ甚シ故ニ之ヲ重罪ト為シ輕懲役ニ處ス但シ強姦シテ未

夕成ラサル者ハ第三百四十六條暴行脅迫ヲ以テ猥褻ノ所行ヲ為シタル者ト為シ其罪ヲ論ス

若シ藥劑或ハ酒類等ヲ用ヒ婦女ヲシテ昏睡セシメ

又ハ精神ヲ錯亂セシメテ其知ラサルニ乘シ姦淫ヲ

行フタル者ハ暴行脅迫ヲ為サスト雖氏即チ其承諾

ナキ者ナレハ強姦ヲ以テ其罪ヲ論シ輕懲役ニ處ス

第三百四十九條

十二歳ニ滿サル幼女ヲ姦淫シタル者ハ輕懲役ニ處ス

若シ強姦シタル者ハ重懲役ニ處ス

註本條ハ十二歳ニ滿サル幼女ヲ姦淫シタル者ハ暴行

脅迫ヲ用キスト雖氏重罪ト為シ輕懲役ニ處スルヲ

云フ蓋シ男女ノ和構ハ自由ニ之ヲ為スヲ得ル者ニ

シテ法律上決シテ之ヲ禁止スル者ニ非ラス然レ氏

十二歳ニ滿タサル幼者ニ於テハ情慾未タ發セス且

ツ智慮未タ備ハラス假令ヒ其承諾ヲ得ルモ多クハ

欺瞞誑誘ニ因ルヲ以テ強姦ト同一ノ刑ニ處ス若シ

暴行脅迫ヲ加ヘ又ハ藥酒ヲ以テ姦淫シタル者ハ其

情更ニ重シ故ニ一等ヲ加ヘテ重懲役ニ處ス

第三百五十條

前數條ニ記載シタル罪ハ被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ

待テ其罪ヲ論ス

〔註〕本條ハ第三百四十四條ト同一ニシテ前數條ニ記載シタル猥褻及ヒ姦淫ノ罪ハ被害者ノ名譽ニ關スルヲ以テ他ヨリ之ヲ告發スルヲ得ス即チ被害者及ヒ其親屬ノ告訴ヲ為スヲ待テ其罪ヲ論ス

第三百五十一條

前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ殴打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス但強姦ニ因テ廢篤疾ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

〔註〕本條ハ前數條ニ記載シタル猥褻姦淫ノ罪ヲ犯シ因テ其者ヲ死傷ニ致シタル者ノ罪ヲ云フ此等ノ所為ハ故意ニ出タルニ非サレハ殴打創傷ノ各本條ニ照シ其罪ヲ論シ一ノ重キニ從フ然レ強姦ヲ犯シ因テ廢篤疾又ハ死ニ致シタル者ハ其情狀甚々重キヲ以テ

殴打創傷ノ罪ニ比準ス可キ者ニ非ラス故ニ廢篤疾ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ無期徒刑ニ處ス但シ本條ノ場合ニ於テハ被害者又ハ其親屬ノ告訴ナシト雖レ其罪ヲ論ス可キモノトス

第三百五十二條

十六歳ニ滿サル男女ノ淫行ヲ勸誘シテ媒合シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

註本條ハ十六歳ニ滿サル幼男幼女ヲ誑騙欺瞞シ淫行ヲ勸誘シ媒合シテ通姦セシメ已レ其間ニ立チ利慾ヲ貪リタル者ノ罪ヲ云フ夫レ十六歳未滿ノ幼者ハ知慮完全ナラス之ヲ嚮惑シテ其淫行ヲ勸誘スル時ハ風俗ヲ害スルヲ甚シ故ニ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百五十三條

有夫ノ婦姦通シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其相姦スル者亦同シ

此條ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス但本夫先ニ姦通ヲ縱容シタル者ハ告訴ノ效ナシ

註本條ハ有夫姦ノ罪ニシテ人ノ婦タル者密カニ他人ト通姦スルハ道義ニ背キ貞操ヲ缺キ且ツ夫ノ血胤ヲ亂ル又タ夫アルノ婦タルヲ知テ相姦スル者ハ本夫ノ權ヲ害シ社會ノ通義ヲ破ル故ニ姦夫姦婦共ニ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス而シテ此條有

夫姦罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス可キ者ニシテ他人ヨリ之ヲ告發スルヲ得サル者トス何トナレハ此等ノ事ハ夫ノ名譽ニ關スルヲ以テ他ヨリ之ヲ摘發セハ却テ其名譽ヲ害シ一家ノ平和ヲ敗ルノ恐レアレハナリ但シ本夫先ニ他ノ事情アリテ其姦通ヲ縱容シタル者ハ假令ヒ告訴ヲ為スモ其効ナキ者トス

第三百五十四條

配偶者アル者重ネテ婚姻ヲ為シタル時ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ

附加ス

〔註〕本條ハ前ニ法式ヲ以テ結婚シタル正妻アル者又ハ本夫アル者未タ前婚ヲ解スシテ重ネテ法式ヲ以テ他人ト婚姻シタル者ノ罪ヲ云フ夫レ一夫一婦ハ社會ノ通義ニシテ人倫ノ大本ナリ然ルニ重婚ヲ為ス力如キハ社會ノ秩序ヲ紊シ風俗ヲ害ス故ニ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十二節 誣告及ヒ誹毀ノ罪

〔註〕此節ハ不實ノ事ヲ以テ人ヲ告訴告發シ及ヒ

人ノ惡事醜行ヲ摘發シ若クハ密事ヲ漏告シ
人ヲ誹毀シタル者ノ罪ヲ云フ

第三百五十五條

不實ノ事ヲ以テ人ヲ誣告シタル者ハ第二百二十條ニ
記載シタル偽證ノ例ニ照シテ處斷ス

〔註〕本條ハ人ヲ罪ニ陷レン為メ無實ノ事ヲ以テ官ニ告
訴告發ヲ為シタル者ノ罪ニシテ即チ虚事ヲ誣ヒテ
實事ト為シ輕事ヲ誣ヒテ重事ト為スヲ云フ此等ノ
者ハ偽證ヲ為シタル者ト其罪異ナルヲナケレハ第
二百二十條ニ記載シタル偽證ノ例ニ照シ重罪輕罪

及ヒ違警罪ノ區別ニ從ヒ其罪ヲ處斷ス

第三百五十六條

誣告ヲ為スト雖モ被告人ノ推問ヲ始メサル前ニ於テ
誣告者自首シタル時ハ本刑ヲ免ス

〔註〕本條ハ自首減輕法ノ特例ニシテ不實ノ事ヲ以テ人
ヲ誣告スト雖モ被告人未タ官ノ推問ヲ受ケサル以
前ニ於テ誣告者自ラ其非ヲ悔ヒ官ニ自首シタル時
ハ被告人ニ於テ毫モ害ヲ被ルヲナク且ツ自首ヲ獎
勵シテ宥罪ナカラシムル為メ其本刑ヲ全免スル者
トス

第三百五十七條

誣告ニ因テ被告人刑ニ處セラレタル時ハ第二百二十

一條第二百二十二條ニ記載シタル例ニ照シテ處斷ス

〔註〕本條ハ不實ノ事ヲ以テ人ヲ誣告シ為メニ其者己ニ

刑ニ處セラレタル後其誣告ノ罪始メテ發シタル時

ヲ云フ此場合ニ於テハ第二百二十一條第二百二十

二條ニ記載シタル偽證ノ為メ被告人刑ニ處セラレ

第三百五十八條

惡事醜行ヲ摘發シテ人ヲ誹毀シタル者ハ事實ノ有無

ヲ問ハス左ノ例ニ照シテ處斷ス

一公然ノ演說ヲ以テ人ヲ誹毀シタル者ハ十一日以上

三月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰

金ヲ附加ス

二書類畫圖ヲ公布シ又ハ雜劇偶像ヲ作為シテ人ヲ誹

毀シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ

五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

〔註〕前數條ハ誣告ノ罪ニシテ本條以下ハ誹毀ノ罪ヲ云

フ此條ハ人ノ惡事醜行ヲ摘發シ之ヲ誹謗讒毀シタ

ル者ハ其名譽ヲ害スルヲ以テ事實ノ有無ヲ問ハス

左ノ例ニ照シ其罪ヲ處斷ス

一此項ハ公然稠衆ノ前ニ於テ演說ヲ以テ人ノ惡事醜行ヲ舉ケ之ヲ誹謗譏毀シタル者ハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス此項公然ノ字注意ヲ要ス若シ陰容ニ誹毀シタル者ハ本條ニ依リ論ス可キ者ニアラス

二此項ハ人ノ惡事醜行ヲ書冊ニ著ハシ若クハ圖畫ニ印シテ世上ニ公布シ又ハ芝居狂言等ノ雜劇若ハ造リ人形等ノ偶像ヲ作為シテ其入ヲ誹謗譏毀

シタル者ハ前項ニ比スレハ其情更ニ重シ何トナレハ前項ハ演說ヲ以テ人ヲ誹毀シタル者ナレハ其害タル一時ニ止リ且ツ之ヲ世上ニ傳播スルノ狹シ然レモ本項ノ者ニ至テハ其害タル永ク社會ニ存在シ且ツ之ヲ世上ニ傳播スルノモ廣シ故ニ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百五十九條

死者ヲ誹毀シタル者ハ誣罔ニ出タルニ非サレハ前條ノ例ニ照シテ處斷スルヲ得ス

註本條ハ死者ニ對シテ生前ノ惡事醜行ヲ摘發シテ誹毀シタル者ノ罪ニシテ死者ヲ誹毀シタル時ト雖モ其親屬ヨリ告訴スレハ前條ノ例ニ照シテ其罪ヲ處斷ス可キ者トス然レモ死者ニ對スル誹毀ノ罪ハ全ク事實ナキ即チ誣罔ニ出タルニ非サレハ其罪ヲ論スルヲ得ス何トナレハ史書ハ悉ク古今ノ事蹟ヲ記載スル者ナリ然ルニ若シ死者ニ對スルモ猶ホ生者ト同シク事實ノ有無ヲ問ハス之ヲ罰スヘキ者トセハ史家ハ遂ニ古今ノ事蹟ヲ記スルヲ得サルニ至ルヘシ故ニ死者ヲ誹毀スルモ事實アル時ハ其罪ヲ

論セサル者トス

第三百六十條

醫師藥商總婆又ハ代言人辯護人代書人若クハ神官僧侶其身分職業ニ於テ委託ヲ受ケタル事ニ因リ知得タル陰私ヲ漏告シタル者ハ誹毀ヲ以テ論シ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但裁判所ノ呼出ヲ受ケテ事實ヲ陳述スル者ハ此限ニ在ラス

註本條ハ身分職業上ニ於テ人ヨリ委託ヲ受ケタル陰私ノ事ヲ漏告シタル罪ヲ云フ即チ醫師藥商總婆又

刑罰新編 卷之六
ハ代言人、辯護人、代書人、若クハ神官、僧侶等ハ其身分
或ハ職業ニ於テ人ヨリ秘密ノ事件ヲ委託セラレ、
一アリ然ルニ其知得タル陰私ヲ漏告シタル時ハ其
者ノ名譽利害ニ關ス故ニ誹毀ヲ以テ其罪ヲ論シ十
一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓
以下ノ罰金ヲ附加ス然レモ此等ノ者裁判所ヨリ呼
出ヲ受ケテ事實参考ノ為メ陳述スヘキヲ命セラ
レ之ヲ陳述シタルモ本條ニ依リ罰ス可キ者ニアラ
ス

第三百六十一條

此節ニ記載シタル誹毀ノ罪ハ被害者又ハ死者ノ親屬
ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

註本條ハ前三條ニ記載シタル罪ハ他ヨリ之ヲ告發ス
ルヲ得ス必ス被害者又ハ死者ノ親屬ノ告訴ヲ待テ
其罪ヲ論スヘキ者トス何トナレハ此等ノ事ハ其名
譽ニ關スル一ナレハ被害者又ハ死者ノ親屬ノ告訴
ヲ為サ、ルニ他ヨリ之ヲ摘發セハ却テ其名譽ヲ害
スル一アリ且ツ其名譽ヲ害セラレタルカ否ハ被害
者又ハ其親屬ニ非ラサレハ之ヲ知ル一能ハサルヲ
以テナリ

第十三節 祖父母父母ニ對スル罪

〔註〕此節ハ子孫タル者其祖父母父母ノ身體ニ對

シ犯シタル罪ヲ云フ夫レ祖父母父母ハ最モ

尊重ス可キ者ナリ然ルニ其身體ニ對シ殺傷

暴行ヲ為スカ如キ其罪凡人ニ對スルヨリ重

シ故ニ此一節ヲ設ケ之ヲ嚴罰ス

第三百六十二條

子孫其祖父母父母ヲ謀殺故殺シタル者ハ死刑ニ處ス

其自殺ニ關スル罪ハ凡人ノ刑ニ照シ二等ヲ加フ

〔註〕本條ハ子孫タル者其祖父母父母ヲ謀殺又ハ故殺シ

シルモノハ極惡不孝其罪至テ重キヲ以テ皆ナ之レ

ヲ死刑ニ處スルヲ云フ又々第三百二十條第三百二

十一條ニ記載シタル自殺ニ關スル罪ヲ犯シタル者

ハ凡人ノ受クヘキ刑ニ照シ二等ヲ加ヘテ其罪ヲ處

斷ス但シ此條祖父母父母子孫ト稱スルハ第百十五

條ニ記載シタル者ヲ云フ

第三百六十三條

子孫其祖父母父母ニ對シ毆打創傷ノ罪其他監禁脅迫

遺棄誣告誹毀ノ罪ヲ犯シタル者ハ各本條ニ記載シタ

ル凡人ノ刑ニ照シ二等ヲ加フ但癡疾ニ致シタル者ハ

有期徒刑ニ處シ篤疾ニ致シタル者ハ無期徒刑ニ處シ
死ニ致シタル者ハ死刑ニ處ス

註本條ハ子孫タル者祖父母父母ニ對シ第三百一條ニ
記載シタル毆打創傷ノ罪其他第三百二十二條第三
百二十三條ニ記載シタル監禁ノ罪第三百二十六條
ニ記載シタル脅迫ノ罪第三百三十六條第三百三十
七條ニ記載シタル遺棄ノ罪第三百五十五條第三百
五十七條第三百五十八條ニ記載シタル誣告誹毀ノ
罪ヲ犯シタル者ハ各本條ニ記載シタル凡人ノ受ク
ヘキ刑ニ照シ二等ヲ加ヘ其罪ヲ處斷スルヲ云フ但

シ此等ノ罪ヲ犯シ因テ廢篤疾若クハ死ニ致シタル
者ハ其罪更ニ重シ故ニ廢疾ニ致シタル者ハ有期徒
刑ニ處シ篤疾ニ致シタル者ハ無期徒刑ニ處シ死ニ
致シタル者ハ死刑ニ處ス

第三百六十四條

子孫其祖父母父母ニ對シ衣食ヲ供給セス其他必要ナ
ル奉養ヲ缺キタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮
ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

註本條ハ子孫タル者其祖父母父母ニ對シテハ奉養ヲ

竭シ其心ヲ慰ミ其身ヲ安スヘキニ之ニ反シテ衣服
飲食ヲ供給セス其他必要ナル奉養ヲ缺キ祖父母父
母ヲシテ困苦セシメタル者ヲ云フ此等ノ者ハ不孝
ノ罪罰セサル可カラス故二十五日以上六月以下ノ
重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
若シ前項ノ罪ヲ犯シ因テ疾病又ハ死ニ致シタル者
ハ前條ノ例ニ照シ其罪ヲ處斷ス即チ疾病ニ罹ラシ
ムル時ハ第三百一條ニ記載シタル凡人ノ刑ニ二等
ヲ加ヘ死ニ致シタル者ハ死刑ニ處スルヲ云フ
第三百六十五條

祖父母父母ニ對シタル殺傷ノ罪ハ特別ノ宥恕及ヒ不
論罪ノ例ヲ用フルヲ得ス但其犯ス時知ラサル者ハ
此限ニ在ラス

註本條ハ第三百九條以下第三百十三條ニ記載シタル
特別ノ宥恕減輕及ヒ第三百十四條第三百十五條ニ
記載シタル不論罪ノ例ハ子孫タル者祖父母父母ニ
對シタル殺傷ノ罪ニ適用スルヲ得サルヲ示ス此
レ蓋シ祖父母父母ニ對スル罪ハ凡人ニ對スル罪ト
同視ス可カラサルヲ以テナリ然レモ其罪ヲ犯ス時
祖父母父母タルヲ知ラスシテ殺傷シタル者ハ仍

亦特別ノ宥恕及ヒ不論罪ノ例ニ從フヘキ者トス

刑法義解卷之六終

